

2019 年度
C 級審判審査
筆記試験問題

A

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

1. 7 m スローコンテストを行う場合、使用するゴールを決定するのは誰か。
 - (a) コイントスに勝ったチーム
 - (b) コイントスに負けたチーム
 - (c) レフェリー
 - (d) 第 1 レフェリー

2. プレーヤーの負傷によるタイムアウト中に、レフェリーが入場許可を与えていないにもかかわらず、A チームの余計なプレーヤーがコート内に飛び込んでいった。
 - (a) プレーヤーを警告とする。
 - (b) プレーヤーを 2 分間退場とする。
 - (c) プレーヤーを失格とする。
 - (d) プレーヤーを 2 分間退場とし、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らす。

3. A チームが速攻で明らかな得点チャンスを得た。そのときに B3 が不正交代をした。タイムキーパーとスコアラーはこれに気づかなかったが、コートレフェリーが気づいていた。
 - (a) 直ちに B3 を 2 分間退場とし、A チームのフリースロー
 - (b) 直ちに B3 を 2 分間退場とし、A チームの 7 m スロー
 - (c) 明らかな得点チャンスが終わるまで待ち、B3 を 2 分間退場、A チームのフリースロー
 - (d) 明らかな得点チャンスが終わるまで待ち、B3 を 2 分間退場とし、競技の中断の状況に相応しいスローで競技を再開

4. プレーイングエリアに立っていた A3 は、味方のゴールキーパーがはじいたボールをキャッチした。B10 が A3 を正当なプレーで防御したため、A3 はボールを自陣のゴールエリア内でボールをバウンドさせて再びつかんだ。
 - (a) そのまま競技を続行
 - (b) B チームの 7 m スロー
 - (c) B チームのフリースロー
 - (d) A チームのフリースロー

5. A7 は味方の防御陣の中央に立っていた。B3 はバウンドパスをしようとした。これまでも A7 は故意に足でパスを止めようとして注意されていたが、今回はパスを止めようとした足にボールがあたって、A チームのゴールの中に入った。

- (a) B チームのフリースロー
- (b) 得点
- (c) B チームの 7 m スロー
- (d) A7 に段階的罰則を適用

6. ゴールキーパー A はシュートを止め、そしてプレーイングエリアの方へ転がっていくボールに飛びついた。B7 は妨害されることもなくボールを拾おうと待ち構えていた。寸前で、ゴールキーパー A はボールをアウターゴールラインの外へ手ではじき出した。

- (a) B チームのフリースロー
- (b) B チームのスローイン
- (c) A チームのゴールキーパーズスロー
- (d) A チームのフリースロー

7. A8 はプッシングにより 2 分間退場となった。A8 はレフェリーに近寄り、「間抜け、馬鹿野郎、おまえは何も分っていない」などと罵った。さらにコートから出る前にレフェリーの顔に唾をかけた。

- (a) A8 を失格（ブルーカードを提示しない）とし、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らす。
- (b) A8 を失格（ブルーカードを提示しない）とし、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 2 名減らす。
- (c) A8 を失格（ブルーカードを提示する）とし、A チームはコート上のプレーヤーを 4 分間 1 名減らす。
- (d) A8 を失格（ブルーカードを提示する）とし、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 2 名減らす。

8. ゴールキーパーズスローが行われたと見なされて、コートプレーヤーがボールに触れることができるのはいつか。

- (a) ボールがまだゴールエリア上の空中にあるとき
- (b) ボールがゴールエリアラインを越え、プレーイングエリアに出たとき
- (c) ゴールキーパーがボールを手から離れたとき
- (d) ゴールキーパーの味方のプレーヤーがボールに触れたとき

9. レフェリーの笛の合図に続いて、B2 が 7 m スローを行おうとしたとき、A5 がフリースローラインを踏み越した。A5 の違反にもかかわらず、B2 はシュートを決めた。

- (a) 得点とし、A5 を失格
- (b) 得点とし、A5 を退場
- (c) 得点
- (d) A5 を失格とし、7 m スローを再度実施

10. A3 は 2 分間退場となった。A3 はコートを出た後、競技の再開前に交代地域で B チームのコーチに対して著しくスポーツマンシップに反する行為をした。その直前、B チームのコーチはタイムアウトとは無関係にコート内に走り込んでいた。ただし、B チームのチーム役員への罰則はまだ適用されていなかった。

- (a) A3 を失格
- (b) B チームのコーチを警告
- (c) A チームは 4 名のコートプレーヤーで競技を再開
- (d) A チームは 5 名のコートプレーヤーで競技を再開

11. A7 が速攻をしていた。A7 の打ったシュートがジャンプしたゴールキーパー B12 の頭部に当たったため、B12 は倒れた。B12 の頭部に当たったボールはゴールエリアライン際に立っていた A9 に跳ね返り、A9 は無人のゴールにボールを投げ入れた。もし、ボールがゴールエリア上の空中にあってゴールに入る前に、レフェリーが笛を吹いたならば、どのように処置するか。

- (a) A チームの得点
- (b) A チームの 7 m スロー
- (c) 笛の合図の後に A チームのフリースロー
- (d) タイムアウト

1 2. A14 は（笛の合図なしに）フリースローをしようとしており、味方のプレイヤーもそれぞれ正しい地点に立っている。A14 がボールを手から離す前に A13 と A15 がフリースローラインを踏み越えた。

- (a) 誤った位置を訂正
- (b) 笛の合図の後に A チームのフリースロー
- (c) そのまま競技を続行
- (d) B チームのフリースロー

1 3. ゴールキーパー B16 は A7 へのロングパスをインターセプトするために、ゴールエリア内でジャンプした。B16 は空中でボールをキャッチし、それからボールを持ったまま着地したが、片足はゴールエリア内、他方の足はゴールエリア外であった。この位置から B3 へボールを投げた。

- (a) A チームの 7 m スロー
- (b) そのまま競技を続行
- (c) A チームのフリースロー
- (d) 位置を訂正し、笛の合図の後にゴールキーパーズスロー

1 4. A7 は 3 回目の 2 分間退場により失格となった。その直後、A7 はレフェリーに異議を唱えて、コートから去らなかった。

- (a) 罰則を追加しない。
- (b) A チームはコート上のプレイヤーを 4 分間 1 名減らす。
- (c) A チームはコート上のプレイヤーを 2 分間 2 名減らす。

1 5. 競技の終了直前、A チームが 22 対 21 でリードしているとき、A12 は規則に違反することなく、自チームのゴールの方向にスローオフを行った。しかし、レフェリーが笛で合図した後、スローが行われるまでの間に、味方のプレイヤーはセンターラインを越えて相手陣に走り込んでいた。そのため、スローオフで投げられたボールは、ゴールエリア内にいた A1 にも触れずに、A チームのゴールの中に入った。

- (a) B チームの得点
- (b) B チームのフリースロー
- (c) スローオフを再度実施
- (d) A12 に段階的罰則を適用
- (e) タイムアウト

16. 7 m スローコンテストに参加できないのは誰か。
- (a) 延長戦の終了直後にレフェリーを侮辱したプレーヤー
 - (b) ゴールキーパー
 - (c) 延長戦の終了時点で 2 分間の退場時間が満了していないプレーヤー
 - (d) 失格となったプレーヤー
17. どの場合にゴールキーパースローとなるか。
- (a) ボールを持っている攻撃側プレーヤーが、相手のゴールエリアに侵入した場合。
 - (b) ボールを持っていない攻撃側プレーヤーが相手のゴールエリアに侵入し、これによって有利になった場合。
 - (c) 攻撃側プレーヤーが相手のアウターゴールラインを越えてコート外にボールを出した場合。
 - (d) ボールを持っているプレーヤーが自チームのゴールエリアに侵入した場合。
18. 必ずしもタイムアウトを取る必要がない状況はどれか。
- (a) ボールがコートから遠く離れたとき
 - (b) タイムキーパーから笛の合図があったとき
 - (c) プレーヤーが負傷したと思われるとき
 - (d) どちらのチームがボールを所持するかについて、両レフェリーの判定が異なったとき
19. A5 は 7 分 0 秒に 2 分間退場となった。競技が再開される前に抗議をして、2 分間追加の退場となった。そのちょうど 1 分後に A5 はコート内に走り込み、タイムキーパーが笛を吹いた。A5 は不正入場により、さらに 3 回目の 2 分間追加の退場となったため、失格となった。その直後、この判定に対してレフェリーを侮辱した。
- (a) A チームはコート上のプレーヤーを 7 分 0 秒から 8 分 0 秒まで 1 名減らし、8 分 0 秒から 10 分 0 秒まで 2 名減らし、10 分 0 秒から 11 分 0 秒まで 1 名減らす。
 - (b) A チームはコート上のプレーヤーを 7 分 0 秒から 8 分 0 秒まで 1 名減らし、8 分 0 秒から 11 分 0 秒まで 2 名減らし、11 分 0 秒から 12 分 0 秒まで 1 名減らす。
 - (c) A チームはコート上のプレーヤーを 7 分 0 秒から 8 分 0 秒まで 2 名減らし、8 分 0 秒から 10 分 0 秒まで 3 名減らし、10 分 0 秒から 11 分 0 秒まで 2 名減らす。
 - (d) A チームはコート上のプレーヤーを 7 分 0 秒から 8 分 0 秒まで 2 名減らし、8 分 0 秒から 10 分 0 秒まで 4 名減らし、10 分 0 秒から 11 分 0 秒まで 2 名減らす。

20. B6 は警告となった。A チームのフリースローにより競技を再開するため、コートレフェリーが笛を吹いたが、ゴールエリアラインとフリースローラインの間にいた A11 を見逃してしまった。A11 はボールをキャッチし、明らかな得点チャンスとなった。ゴールレフェリーはこの事象を見ていた。
- (a) そのまま競技を続行する
 - (b) 位置を正し、笛の合図の後にフリースローを再度実施する。
 - (c) ゴールレフェリーが B チームへのフリースローを判定する。
 - (d) ゴールレフェリーが A11 を警告とする。
 - (e) タイムアウトを取る。
21. チームタイムアウトのあと、レフェリーが競技再開の笛を吹いた。しばらくしてから、TD は A チームはゴールキーパー 1 名、コートプレーヤー 7 名がコート上にいることに気づいた。
- (a) 6 名に戻して、チームタイムアウトの後の状況から競技を再開する。
 - (b) タイムアウトの後、A チームのチーム役員は退場となる選手を指名しなければならない。
 - (c) チーム役員が退場となるプレーヤーを指名できなければ、罰則を与える。
 - (d) チーム役員が退場となるプレーヤーを指名しないときは TD またはレフェリーが指名する。
22. A チーム申請のチームタイムアウト中、B チームのチーム役員がタイムキーパーに対して、「得点を相手チームに入れることが多すぎる！何度も失敗するな！馬鹿野郎が！」と発言した。TD はこの一連の流れを把握していた。
- (a) タイムキーパーに対しての発言なので、何もできない。
 - (b) TD がチーム役員に罰則を与える。
 - (c) TD はレフェリーを呼び、チーム役員に対して罰則を与えるように促す。
23. A チームの攻撃中、コート上にいた A チームのゴールキーパー A1 とコートプレーヤー A7 が交代地域を利用して交代をした。A7 は A6 からボールを受け取って得点を決めた。
- (a) TD は笛を吹き、競技を中断させ、不正交代であることをレフェリーに告げる。
 - (b) A チームの得点を認める

24. B14 がコート上でスリップし倒れた。B14 は激しく頭部を床に打ち付けたため、レフェリーはタイムアウトを取り、治療が必要と判断し、ジェスチャー 16 (2 名までの入場許可) をした。
- (a) B チームのチーム役員はレフェリーの指示に従わなければならない、救護のため 2 名までをコートに入れなければならない。
 - (b) B14 に続けて競技に参加してほしいのであれば、救護のための 2 名までをコートに入れる必要はない。
 - (c) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B14 に罰則を与える。
 - (d) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B チームのチーム責任者に罰則を与える。
25. B5 は罰則が適用されなかった A3 との接触によって負傷し、コート上で治療を受けた。B5 はその後 B チームの 2 回目の攻撃が完了した後、再びコートプレーヤーとして B10 と交代した。
- (a) B5 を 2 分間退場にする。
 - (b) B5 は 3 回の攻撃が終了するまで、交代地域に戻りあと 1 回の攻撃が完了するまで待たなければならない。
 - (c) そのまま競技を続行する